徳島大学　全学共通教育センター

# 週刊 学びのコミュニティー

第３号

平成 21 年 3 月 4 日発行

大学の授業がないこの時期は、全国各地で様々なセミナーやフォーラム、学会などが開かれております。その中から、私たちの取り組みに関わる興味深いシンポジウムありましたので、その内容を報告させて頂きます。

## 【同志社大学での公募制のプロジェクト科目による地域活性化シンポジウム】

同志社大学では文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム「公募制のプロジェクト科目による地域活性化」が 2006 年よりスタートした。この取組に関して 2 月 21 日に開催されたシンポジウムについて報告したい。

会場は大学の講義室で 500 名ぐらいが収容できそうなところであった。こんな大規模校でどのようなプロジェクト型の授業が実践されているのかという点が興味の一つであったが､意外なことに１クラス 5～19 名の受講生と極めて少人数の授業を展開していると紹介された。地域社会人や地域の企業などから公募した授業を学生が１年間履修するというシステムである。学生からの事例報告が３件あったが、プロジェクトごとに苦難があり、それを乗り越えていくプロセスが紹介され、中でもプロジェクトリーダーとしての自信喪失からグループを一時離れるが、後にグループの仲間に信頼が持てたので復帰したという話には会場からの温かい拍手が沸いた。

講演は鈴木敏恵氏による「小学校からのプロジェクト学習とポートフォリオ」であった。小学校における総合学習を数多く手がけているが、大学においても、社会に出ても、生涯学習としてプロジェクト型学習は有効であるという主張である。プロジェクト学習においては、①目的と目標を明確にすること②コーチング（教授）より、学習者が自己のメタ認知を行い、セルフコーチングができるようにすること③そのためにポートフォリオ作成をする。がポイントであった。従来の一斉授業とその評価であるテストは、水を飲んだらおしっこがでるようなものであって（下品な発言をわびるコメントつき）、それだけの教育から脱出し、意思ある学びにより未来を創造する教育の重要性を説いた。

PBL 学習には、Problem Based Learning（課題解決学習）と Project Based Learning（プロジェクト学習）の 2 種類があるが、本シンポジウムでは他 3 大学の取り組みも含め後者の教育方法を地域社会にて実践したときの教育効果について集約された。プロジェクト型教育では流動性・増殖性・越境性という特性があり、プロジェクト同士が繋がろうとしたり、大学内から地域社会に越境することが教育としてよい結果を生み出したりするという点が明らかにされた。（総合科学部　斉藤隆仁）

★同志社大学の取組 HP
http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/pbl/index.php

★鈴木敏恵（プロジェクト学習に関する多数の動画があります）
http://www.suzuki-toshie.net/　　http://www.mirai-project.net/

参考に
ご覧ください！

## ～編集後記～

“週間ニュースで知って、本を見に行きました”と学生さんが訪ねてきてくれました。じわじわと利用してくれる学生さんが増えてきて、嬉しい限りです。今後ますます有効利用されることを願っています。（境）